

保育計画成果報告書

法人名等	株式会社セリオ
施設名	トレジャーキッズたかどの保育園
報告者（役職）	植田伸子（主任保育士）
住所・連絡先	大阪市旭区高殿 7-16-29
	☎ 06-6967-9191
	E-mail treasure-takadono@serio-corp.com

○タイトル（保育計画）

未来を担う子どもたちの心と身体をたくましく育む

○主な助成備品

丸太砦、テクノロマンの鉄棒・平均台・カラーマット

1. 保育計画策定の目的

当園は、平成 30 年 4 月に定員 90 名の認可保育園として開園しました。開園 1 年目の保育園のため、室内遊びの玩具はそろってききましたが、固定遊具では、タイヤがあるだけで、鉄棒と平均台も 1 台ずつしかありませんでした。そのため、遊ぶために待つことが必要だったり、遊びの広がりが見られない状況でした。このような状況の中、室内でも戸外でも子どもたちが十分に身体を使った運動遊びを低年齢の頃からできるようにと運動用具等の整備に至りました。

平均台やカラーマット、高さの違う鉄棒の種類・数を増やすことで組み合わせにバリエーションが増し、更に「転がる・走る・ぶら下がる・飛び跳ねる・渡る・登る」と動きが広がり、今以上に簡単な遊びから高度な動きまで段階的に発展させることが可能になり、日々の運動遊びを通して、人との関わりや運動機能の向上、子どものやりたい気持ちから自信へつなげていくことを目標とし、未来を担う子どもたちの心と身体をたくましく育むことを保育計画に策定しました。

2. 具体的な実施内容

- ・テクノロマンの鉄棒、平均台、カラーマット
- ・丸太砦



カラーマットの上で
四つ這いハイハイ運動
平均台の上からまたいだり
下からくぐったりして遊び
ました

1・2歳児の室内での運動
遊びの様子です！
一生懸命、腕を伸ばして
鉄棒にぶら下がります



【体験】

友だちと何度も繰り返し体験することで、保育者から褒められる機会が増え「やってみよう」という興味関心を引き出す

【体感】

もう少しでできそうという手ごたえと挑戦したい意欲を高めながら「できそう」というコツを掴む

【体得】

これまでの遊びで積み重ねた経験が、体得へとつながり、何度も挑戦する意欲を高め「できた」へとつながる



上手に渡れるようになると
次は自分たちで片足ずつ交互に
降りて歩くなど、色々工夫す
る姿がありました

【4・5歳児】平均台を縦に2本つなげたり、横に2本並べてみたりして、置き方も自由にアレンジして楽しんでいます。片足ずつゆっくり降りて、登って、降りて、登って進んでいくと、だんだんリズム良く渡ることができるようになりました。



前回りや逆上がりにも挑戦！
順番を守って自然と並んだりルー
ルも守れるようになってきたね

3・4・5歳児が一緒になって、繰
り返し楽しんでいる姿が見られる
ようになりました



保育園のシンボル【丸太砦】
遊具で遊ぶ子どもたち

3. その成果と評価

本園に運動用具が増えてから、特別保育の体操教室の中で活用したり、普段の遊びの中でより多くの運動遊びを取り入れることで、得意な子も、苦手な子も自ら遊んで熱中する姿が増えました。また、遊びに慣れてくると「やってみたい」「もっとできるようになりたい」と子どもたちは様々な動きに挑戦しようと思えるようになりました。保育者が個々の子どもの「やってみたい」という気持ちを受け止め、発達過程を十分理解し、安全面にも配慮しながら取り組みました。秋の運動会の頃、サーキット遊びでは回を重ねるごとに、順番を待つなどのルールを少しずつ理解する機会にもなりました。また友だちと一緒に楽しんだり、励ましたりする中で、友だち同士が、お互い意識し合って、共感し合える等、仲間意識が芽生え、子どもたちの心の成長も感じることができ、さらに運動遊びが大好きになりました。

4. 今後の課題と展望

運動用具を取り入れてから1年が経ちました。徐々に運動能力も伸び始め、少し難しいことにもチャレンジしようとする姿も見られました。年間を通して大きな怪我がなかったことは、「保育の中で小さな怪我はたくさんしても、大きな怪我をしないように…」「自分の身を守るために必要な安全能力とは？」と考え、運動遊びにおける環境づくりの見直しがこの1年の実践の中で成果となって表れてきたように思います。日々の運動遊びを通して、転んでも手がつけてすぐ立ち上がれる子、自分のやりたいことを見つけ遊びに熱中できる子を育てていくことは、本園が目指している「主体的にそして意欲的に取り組む力を育てる」に繋がっていくものであると考えて、今後も心身ともに大きく成長できるように支援していきたいと思えます。

以上